

スクンダプロジェクト基金創設のご案内



～ネパールの未来ある子供たちのために～

特定非営利活動法人 日本ネパール友好推進協議会

基金創設の趣旨

2006年に我国と国交樹立50周年を迎えたネパールは、世界で最も経済活動が遅れている国の一つです。それゆえ、教育や診療を受ける機会に恵まれない子供達がたくさんいます。1994年、初めてネパールの地を踏んだ私たちは、カトマンズやポカラ等の都市部や、山奥の少数民族のいる集落で小学生の子供達が毎日の過酷な農作業や幼い兄弟の面倒を見るため、未だ学校に満足にいけないという現状を見て衝撃を受けました。

そこで、何か彼らの役に立てることはないかと考え、学校にいけないなら筆記用具だけでもと、私自身ライオンズクラブカトマンズ「スクンダ」の唯一日本人のメンバーとして、カトマンズ商工会議所や地元の青年商工会のメンバーと協力し、これまで10数年間、古着や学用品、また学校給食などのボランティア活動をしてまいりました。また、医療福祉に関しましてもかなり遅れており、診療施設が極端に少ないことを踏まえ、2003年には「宮城国際支援の会」の支援をいただき、「カガチ村ヘルスケアセンター」を完成させるに至りましたが、現在、アンナプルナヘルスアカデミーの建設のほか、運営方法など様々な案件を抱えており、人材面や資金面など、任意団体では限界が生じてきているのも事実です。そこで、法人格を取得し、より一層ネパールでのボランティア事業を拡大させたいと思い、このたび特定非営利活動法人「日本ネパール友好推進協議会」の設立を内閣府に申請し、2005年10月1日をもって正式に内閣府認証NPO法人としてスタート致しました。

現在、当協会が進めている事業活動は5つございます。1つめは、2003年11月に完成した診療施設「カガチ村ヘルスケアセンター」の運営。2つめは、「アンナプルナヘルスアカデミー」の建設と運営。3つめは、「バネパ孤児院」の運営。4つめは「シャンティ老人ホーム」の建設と運営、5つめは「地元産業の活性化支援」でございます。1人1人の力は、決して大きくありませんが、多くの人々の善意を結集すれば、ネパールの地においても私達の想像をはるかに越えた大きな力になると確信しております。これらプロジェクトにおける皆様の善意あるご寄付を募り、ここに「スクンダプロジェクト基金」を創設致しました。

皆様の幅広いご支持とご協力を賜ります様、何卒、宜しくお願い申し上げます。

2006年10月吉日

(内閣府認証)

特定非営利活動法人 日本ネパール友好推進協議会

理事長 鶴屋 元太郎

ープロジェクトの現状ー

1. カガチ村ヘルスケアセンター
2. アンナプルナヘルスアカデミー
3. バネパ孤児院
4. シャンティ老人ホーム
5. カトマンズ市中小企業経営支援

1. カガチ村ヘルスケアセンターの現状

ネパールの首都カトマンズから北西に約15km行ったところに、カガチ村があります。人口約5,000人の小さな集落は、最貧国ネパールの中でも、乳幼児の死亡率が4割を超え、最近まで医療が全く行き届かず大きな問題となっていました。

そこで私どもは日本国内や現地青年商工会その他の方々の協力を経て、2003年11月に外務省「草の根無償資金」で「カガチ村ヘルスケアセンター」を建設致しました。現在、医師3名、看護婦1名、事務員1名の計5名のスタッフで運営しておりますが、近隣の村からの診察者も増え、1日の診察者数も増加傾向にあります。そのため、医師や看護婦の増員も必要に迫られ、人件費その他の医薬品等の経費も増加しております。その資金の捻出に地元スタッフ含め日々奔走しております。



カガチ村:

村の人口: 5,000人

就学児童: 1,600人・学校に通える子供: 233人

実際に登校している子供: 約100人



カガチ村

カガチ村ヘルスケアセンター



診療に並ぶ子供達

2. アンナプルナヘルスアカデミーの現状

ネパール第2の都市ポカラは、ヒマラヤ山脈を間近に望むことのできる観光地としても有名です。しかし、少し奥地へ入ると、カガチ村同様、就学出来ない児童が多く、また診療所もない村落が目立ちます。私どもはライオンズクラブカトマンズスクンダとともに、現在「アンナプルナヘルスアカデミー」の建設を計画しており、今までの資金で何とか土台を作るまでに至りましたが、まだまだ完成にはほど遠く、資金的に厳しいのが現状です。アンナプルナヘルスアカデミーの建設費については、日本円で8,386,100円という試算がでており、医師等のスタッフの給与、薬代を含めて、日本円で年間1,625,200円のランニングコストがかかると試算しております。



アンナプルナヘルスアカデミー着工式(2004年)



現在は土台のみできています。

3. バネパ孤児院の現状

首都カトマンズから東へ車で約1時間、古くからの交易の町、バネパがあります。

バネパ孤児院は、親を病や事故で亡くした子供たちが生活のために過酷な労働を強いられている状況を改善するために、日本のサポートによって設立されました。私たちは、地元の人々に小児労働の危険性を理解してもらうと同時に、劣悪な条件のもとに働かされていた子供たちの心のケアも考えながら、定期的に訪問し物質的な援助以外にも心の交流を大切にしております。

子供たちの人数も増え、学校に元気に通えるようになった子供たちは生き生きとしています。

いずれは、この孤児院がなくなることを願って支援を続けてまいります。



4. シャンティ老人ホームの現状

伝統的なネパールの文化ではお年寄りは尊敬され、家族が最後まで面倒を見る習慣ですが、近年は両親とも出稼ぎが増加傾向にあり、老人人口もまた増加の一途をたどり、家族から放っておかれる孤独な老人が多いのが現状です。シャンティ老人ホームは、平静と威厳ある老後を過ごしたい老人のために運営されている施設で、貧困で孤独な老人の生活水準を改善する目的で設立された非営利かつ社会的な施設です。しかし、現在は建物が小さな掘立小屋である上、劣化が進み、また近隣の老人人口も急激に増加し、大幅な増築工事が必要な状態となっております。シャンティ老人ホームの増築建設費については、日本円で約4,500,000円という試算が出ております。このホームはスクダの設立理事長であるUttam氏が私費を投じて造られ運営しておりますが、運営予算は厳しい状況です。

主な目的

1. 高齢者も社会市民の一員として尊敬されるような仕組みづくり
2. 高齢者の経験を共有することによる、社会福祉への貢献
3. より効果的な老人ケアプログラムの開発



シャンティ老人ホーム

代表者 Shyama Joshi

副代表者 Bina Acharya

会計 Rama Devi Kayastha

秘書 Saira Pradhanang

理事 Deepak Shrestha

理事 Shanti Devi Pradhanang

理事 Kumar B. Pradhanang

顧問 Uttam Raj kayastha

(ライオンズクラブカトマンズスクダ理事長)

顧問 Shiva Bahadur Pradhanang

5. カトマンズ中小企業経営支援

首都カトマンズはネパール経済の中心です。国内産業の中心は農業ですが、近年インドや中国の企業が進出し、新しい産業が増えております。もともと手先の器用なネパール人は、古くから織物や彫刻、金細工なども得意でした。現在ではインド企業の下請けや、国内インフラ整備のための仕事が増加してきております。しかしながら、設備やノウハウは全くと言ってよいほど用意されておらず昔ながらの人手による労働力に頼っているのが現状です。仕事が増加するとともに競争がおり、より安い労働力を求めるが故に、幼い子供たちの強制的な労働が目につくようになってまいりました。

私たちは、カトマンズ商工会議所と協力し、本来は違法である小児労働を無くすために、企業に対し労務管理の指導と合わせて、適切な設備の導入を進めております。高価な最新設備の導入はまだ難しいですが、日本など先進国で使用されて処分されるような設備でもネパールではまだまだ有効活用ができます。建設機械、工作機械、織機、コンピューター設備等、日本企業で不要となり処分される設備をネパールで再利用する活動にご協力下さい。



スクンダプロジェクト基金 ご寄付のお願い

このように、私どもがこれまで行なってきたボランティア活動の中で、特に資金面において任意団体としては限界が生じており、このたび特定非営利活動法人「日本ネパール友好推進協議会」を設立させていただきました。正式な法人化に伴い、幅広くご寄付を募ることで、現在ある事業案件をスムーズに運営、成功させ、ネパールの子供達やお年寄りの方々への生活水準の向上と広く貧困社会の安定を果たすべく、ここに善意あるご寄付の募集を致しますので、何卒、宜しくお願い申し上げます。

また、寄付金の使い道については、事業案件ごとに当協会で振り分けをさせていただき、特定非営利活動法人 日本ネパール友好推進協議会の年度決算書によるご報告とさせていただきます。また、ご寄付を頂きました皆様については、アンナプルナヘルスアカデミーの竣工、シャンティ老人ホームの竣工の際などに、記念碑・記念誌に貴名を刻ませていただきます。

どうぞ、皆様方の善意あるご寄付を何卒、宜しくお願い申し上げます。

【寄付金】

個人 1口 10,000円 団体 1口 50,000円

三井住友銀行 麴町支店 普通預金 8792232
特定非営利活動法人 日本ネパール友好推進協議会

このたびは、特定非営利活動法人日本ネパール友好推進協議会を発足されるとのことで、更なるネパールでのご活躍を期待しております。ネパールはまだまだ開発の途上で、日本は最大のODA供与国でもあり、ネパールと日本については、両国の関係は良好であります。また2006年はネパールと日本の国交樹立50周年にあたり、ますます両国間の活動が推進されることを願ってやみません。ネパールの子供達や高齢者のためにも皆様の善意あるご寄付を宜しくお願い致します。



ネパール王国 元文部大臣
チェトラ・プラタップ・アディカリ



ライオンズクラブカトマンズスクンダ理事長
日本ネパール友好推進協議会 理事
ウッタム・ラジ・カエスタ

私達ライオンズクラブカトマンズスクンダの仲間であるローズベイジャパンにはとても感謝しております。現在、カガチ村ヘルスケアセンターの運営費にルビーソルト製品売上利益の3%をご寄付いただいております。当クラブでは、様々な案件を抱えており、2005年度は、アンナプルナヘルスアカデミーの建設、シャンティ老人ホームの増築を目標としておりますが、まだまだ資金的にも乏しく、日本の皆様のお力添えを頂きたく、この場をお借りしてご寄付のお願いを致します。